

森為三博士奨学金第1回贈呈

表 彰

兵庫県生物学会会員

西 村 登 殿

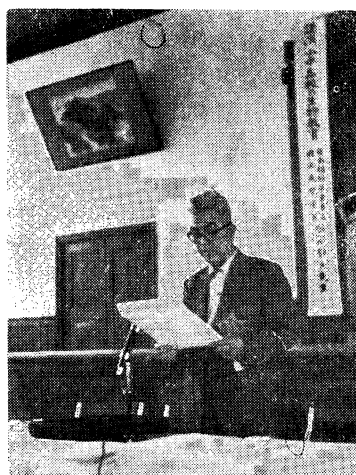
あなたは本会会員として旺盛な研究心をもって努力され、その成果を期待することまことに大きいものがあります。ここに森為三博士生物研究奨学会の規定に従って金 5,000円也を贈呈します。

昭和38年5月24日

兵庫県生物学会会長 紅谷進二 印



森しげ子未亡人



紅谷会長

故森為三先生逝去後間もない初秋、先生未亡人森しげ子夫人から、故先生の御遺志に従い、金100,000円を本会に寄付する旨、申入れを受けたので早急に理事会を召集され度いとこの要請が理事室井締先生からあったので、直ちに理事会を召集、県立長田高校で臨時理事会を開催この件を審議し、折角の御厚志を甘受、先生の御高恩を永久に忘れることなく吾々は努力精進本会の発展の礎とすることを申し合わせた。

その後、奨学規約を定め保管運営することになった。これについては本誌 Vol. 4 No. 3, 4 室井締先生の記事を御参照願ひ度い。

本年は同会規約による最初の贈呈である。規約により第1回贈呈候補者として会員養父郡関宮中学校教諭西村登氏の推薦があったので選考委員会を組織し、また地域の代表者の意見をも聞き、推薦通り西村氏を栄ある第1回贈呈者とすることに決定した。

西村氏の行績については、本誌にも度々の御報告があったので今更申しあげるまでもないと思うのであるが、氏は京大河川生態学研究グループの有力な青年メンバーであり、日本生態学雑誌にもその輝やかな行績報告が度々なされ将来嘱望に値する学徒であると信ずる。記念すべき第1回贈呈式には未亡人森しげ子夫人手ずから御贈呈を願ひ度いことをおねがいしたところ幸い御快諾下さったので、前日兵庫港から海路洲本まで、紅谷、室井、渋谷で御案内申しあげ、翌日総会の日程に贈呈式の儀を加え意義ある第1回贈呈式を行うことができた。

なお、この日森未亡人から奨学会基金に、更に金50,000円の追加寄付の申し出があり、今後は金150,000円を基金として毎年規程に従い運営することとなったことを御報告して諸君と共に、森先生の御遺志に対し感謝申しあげると共に御冥福をお祈り申しあげ度い。